

# NMSH Topics 31 VOL.

July 2019

今月の 院長のイチオシ

救急診療科

## 大学病院の専門性を生かした質の高い外傷診療を提供

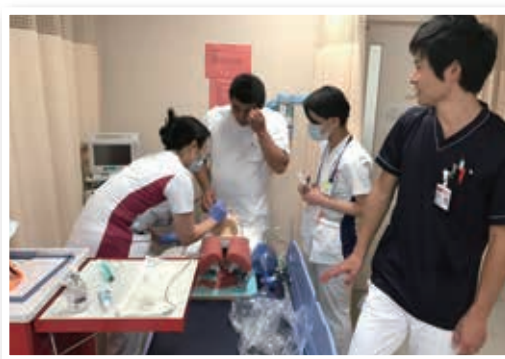
### 各科との連携、スタッフ教育にも注力し、救急診療能力の向上にも貢献

救急診療科は、救急・総合診療センターで外因疾患、とくに外傷を担当する診療科です。高度救命救急センター、消化器外科、形成・再建・美容外科、それぞれの科からの兼任医師1人ずつ、計3人で対応しています。救急・総合診療センターの外傷症例の割合は約16%で、感染症疾患の27%に次いで多く、特に救急車搬送されるケースでその割合が高くなります。外傷の程度は軽症、中等症が主ですが、多部位にわたる症例もあり、他科との連携が必須です。また重症と判断した場合は、特に高度救命救急センターに依頼し、早急な対応をしていただいています。

小児外傷、妊婦外傷も多く、重症度判断から、画像診断の必要性の有無まで、エビデンスに基づいた Decision Making (意思決定) が重要です。クリニカルクラクシップ、研修医にはその点を強調して教育して

います。外傷の原因に内科疾患が潜んでいる可能性があり、また外傷の画像所見に悪性疾患が潜んでいるケースなどにも注意が必要で、大学病院の専門性を生かしたクオリティーの高い医療を提供しています。

一方で外傷診療だけでなく、看護スタッフと協力して、救急・総合診療センターにおける救急初期診療のシミュレーション教育などにも力を入れています。気道確保など救急現場で必須となる手技を、人形を使って練習し、重症症例に備えています。救急・総合診療センターではさまざまな患者さんが来院されます。救急診療科のスタッフは少ないですが、救急現場で必要とされる少数精鋭の科として、今後も貢献したいと思っています。各科にご協力をお願いすることもあります。引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。



左：的確な重症度評価と Decision Making  
右：気道確保のシミュレーション教育